

あわや大水害に

※路上に停止しているのは、午前中に制止を無視して入り込んで停止してしまつた車両

8月14日の早朝、激しい雨音に驚きながら目を覚ましました。煙るような雨降り、水路では、谷から転がり込む



どんどん水位が上がり一段高いところにある建物にも迫る状況 (8月14日午後5時45分)



榎野川の本流の流れは凄まじく、早朝に排水ゲートの高さを超えていた (8月14日午前7時11分)

水流が爆発するように飛び上がっていました。

「九田川の水路はどうか。」関係者は集まっていました。既に市道は冠水、このままでは通行できない状態です。すぐさま安全標識で侵入できないようにしました。

当日はお盆休みの事業所も多く、通勤の人は多くありませんが、雨はその後も断続的に降り続けました。

夕刻近く、水位が急に上がりだしました。榎野川の上流側の泥水が押し寄せてきたために、九田川の排水ができなくなつた状態でした。

「このままでは工場や、住宅などが浸水してしまう。」関係者が何度も協



早生品種の稲穂が雨に打たれていた

議しました。そこで緊急用の排水ゲートを最大開放することになりました。これを行うと、水田の稲が相当数流れてしまいます。また穂のついた稲を冠水させると大きな痛手となります。

しかし、この自然災害から私たちの自治会全体の安全を考えると、止むを得ない決断でした。

午後9時ごろから水位が下がり始め、何とか大きな浸水を防ぐことができました。

行政への不満を訴える人、農業の影響を心配する人、安どの色の隠せない人。それぞれの立場が厳しい状況であることは言うまでもありません。

20日の早朝にも、市道の冠水が起きました。今年の夏は、全国各地で豪被害が発生しました。私たちも何らかの対策を用意できるようにしなくてはなりません。

市との話し合いがスタート

八方原自治会緊急防災会議が招集

今回の「お盆豪雨」被害を地域の総力で防ぎきったことで、山口市から今後の対策について話し合いを行いたいとの申し入れがありました。

八方原上地区、九田川の排水問題は長年の懸案です。様々な場面で、関係者の協議に行く手前で頓挫してきた経過があります。

8月27日に第一回の話し合いが行われます。この紙面が会員の皆様に届くころには、会議は終わっています。会議の内容については、次号以降に詳細に伝えて参ります。

お互いがどこかで譲りあう気がないと、折角の話し合いも良い結果になりません。



水も肥料もないけれど開花

置かれたところで一生懸命に

アスファルトとコンクリートの隙間から芽を出した根性ヒマワリ、ついに咲きました。

夏の初頭の猛暑、日照りにも耐え、盆前からの雨を、これ幸いに大きく育ちました。

公民館に最新鋭空調設備が出来

副自治会長 原田茂樹



操作は簡単、中央のボタンを押すだけ

八方原公民館にエアコンが設置されました。長年の懸案だったエアコンは様々な紆余曲折を経てきました。

夏のスポーツ大会の慰労会、8月の終わりに行っていた、夏祭りなどの合

同慰労会では窓を全開にして、扇風機をフル稼働させていました。冬の新年会では、ゴーゴーと音を立てる石油ストーブのスイッチを入れたり切ったりしながら、温度調整。そんな苦労は全て過去のものとなりました。

今回は114万円という大きな出費となりましたが、外の気温に活動が影響を受けることは少なくなります。この夏の「お盆豪雨」のような時に、不幸にして浸水被害を受けた場合でも、公民館を避難所として使うことができます。



薄くて背の高い室外機が鎮座

今後、細かい使用規定を定めていくことになるでしょう。現在はまだ試運転中で、使用料も仮のものです。使用については公民館長に問い合わせ、有効利用を心がけてください。

環境問題軽視は高くつく

環境問題はますます深刻になってきています。農業分野からも畜産での牛のゲップや圃場から排出されるメタンガスが発生全体の4%を占めるとのこと、対応を求められるかもしれませ

です。残念ながら個別の事案についての情報公開がされていませんので、詳細は分かりません。

ん。メタンは温室効果の高いガスで温暖化ガスの悪玉とみなされています。

ある男性が自分の家で読み終わった新聞紙を自身の所有する裏山に置いていたところ、それが不適切であると、県の監視員が警察に通報、起訴され裁判所が命令を出したということのようです。環境問題での罰則は非常に高額でその位は普通だということでした。

ところで、新聞紙の放置が摘発され裁判所から罰金50万円の略式命令が出たという話を聞きました。「新聞紙で50万円の罰金」ちょっと考えつかない

です。環境問題での罰則は非常に高額でその位は普通だということでした。